

平成 21 年 7 月 23 日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2006～2009
課題番号：18592313
研究課題名（和文）アクションリサーチに基づく看護教育における「隠れたカリキュラム」に関する研究
研究課題名（英文）

研究代表者

澁谷 幸 (SHIBUTANI MIYUKI)

畿央大学・健康科学部・准教授

研究者番号：40379459

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護教育・隠れたカリキュラム・アクションリサーチ

1. 研究計画の概要

(1) 研究目的：看護教育における「隠れたカリキュラム」を解明し、その研究過程を通して、研究参加者の教育実践の変化を目指す。

(2) 方法：看護師、看護教員を研究協力者として、「隠れたカリキュラム」に関するグループディスカッションを実施。ディスカッション内容をデータ化し、看護師養成機関や臨地実習現場に存在する「隠れたカリキュラム」に関連する語りを抽出する。さらに、これらの活動による研究者および研究協力者自身の変化に関するディスカッションを行い、同様に分析する。

2. 研究の進捗状況

平成 18 年から平成 21 年 6 月までに、「隠れたカリキュラム」に関するグループディスカッションを 4 回実施した。各回にテーマを設定し、テーマに沿ったディスカッション内容をデータ化して分析している。テーマは、「自己の教育実践における隠れたカリキュラム」「自己の学習経験における隠れたカリキュラム」「隠れたカリキュラムを意識することによる自己の変化」「看護教育の目標と実際の相違」である。これらのデータは、ディスカッション開催毎に分析し、集積してきた。現在、これらのデータを公表するための準備を行っている。

3. 現在までの達成度

<区分>②おおむね順調に進展している。

理由：第 1 回目のグループディスカッションの結果、研究参加者が自己の実践を振り返りながらディスカッションすることが予想以上に困難であることが明確化した。この状況

から、テーマを細分化し、グループディスカッションの開催数回を増加してデータ収集するなどの計画変更が必要となった。そのため、当初計画よりもデータ収集に時間を要した。

4. 今後の研究の推進方策

本研究活動によって、看護教育における「隠れたカリキュラム」の概要をつかむことができた。今後は、本研究結果で示された「隠れたカリキュラム」が存在する教育場面を調査し、学生の学習実態から「隠れたカリキュラム」を明確化する研究へと推進していく予定である。本研究において参集した研究協力者の本課題に対する関心も高まっていることから、実際の教育場面を題材にしたディスカッションを進めることで、「隠れたカリキュラム」の実態解明に至る活動へと推進していきたい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

澁谷幸、看護教育における Hidden Curriculum の概観—看護教員・看護師が語った教育実態の分析から—、日本看護学教育学会第 19 回学術集会、平成 21 年 9 月 20 日、日本赤十字北海道看護大学（北海道）